

動物・施設・管理の各ベースのすべてにおいて80%以上を満たすことを認証基準とする

#### A. 動物ベース (14項目)

(搾乳牛 FS: フリーストール、搾乳牛 FB: フリーバーン、搾乳牛 TS: つなぎ)

項目名	対象	評価基準	測定方法
BCS	育成牛	BCS スコア 2.0 以下の牛が 1 頭もない ただし、適切な治療を行ってればよい	できる限り全頭を調査する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
牛体の清潔さ	育成牛	清潔度スコア 3 以上の牛の割合が、 大腿 17% 以下である ただし、パドックを利用できる牛は は評価対象外とする	ランダムに選んだ 30 頭以上を調査する ただし、調査対象牛が 30 頭未満であればできる限り全頭を調査する
	搾乳牛 FS	清潔度スコア 3 以上の牛の割合が、 ①大腿 17% 以下	
	搾乳牛 FB	②乳房 20% 以下である	
	搾乳牛 TS	清潔度スコア 3 以上の牛の割合が、 ①大腿 35% 以下 ②乳房 9% 以下である	
飛節の状態	搾乳牛 FS	飛節スコア 3 以上の牛の割合が 18% 以下である	ランダムに選んだ 30 頭以上を調査する ただし、調査対象牛が 30 頭未満であればできる限り全頭を調査する
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
尾の折れ	搾乳牛 FS	尾を人為的に折られた牛が 1 頭もない	全頭を調査する ただし、尾が折れている牛がいれば 該当牛の番号を控え、管理者に理由 を聞き、その管理者によって人為的 に折られていないか確認する
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
断尾	哺乳子牛	断尾されている牛および糞石により 尾が脱落している牛が 1 頭もない ただし、外部導入時から尾がない牛 は除く	全頭を調査し、尾がない牛がいれば 該当牛の番号を控え、管理者に理由 を聞く
	育成牛		
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		

蹄の状態	搾乳牛 FS	蹄冠部スコア 3 以上の牛が 1 頭もない、かつロコモーションスコア 2 以上の牛の割合が 14%未満である ただし、適切な治療を行っていればよい	ランダムに選んだ 30 頭以上を調査する ただし、調査対象牛が 30 頭未満であればできる限り全頭を調査する
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS	放牧を行っている場合、蹄冠部スコア 3 以上の牛が 1 頭もない、かつロコモーションスコア 2 以上の牛の割合が 14%未満である 放牧を行っていない場合、蹄冠部スコア 3 以上の牛が 1 頭もない ただし、適切な治療を行っていればよい	
外傷	哺乳子牛	以下の条件をすべて満たしている ①飛節を除いた、首、前膝、背中、後膝などの部位に傷、擦りむけ、タコ、出血、腫れ、化膿などの外傷（直径 2 cm 以上）がみられる牛の割合が 7%未満である ②首輪や脚輪、頭絡などの装着器具による過度な外傷がみられる牛が 1 頭もない	できる限り全頭を調査し、頭数割合は対象牛別に算出する
	育成牛		
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
皮膚病	育成牛	皮膚病を発症している牛が 1 頭もない ただし、適切な治療を行っていればよい	できる限り全頭を調査する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
病傷事故 頭数被害率	哺乳子牛 育成牛 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS	地域平均値以下である	調査前年度 1 年分の共済記録を用いるが、共済に加入していない場合はアンケートによる聞き取り調査を行う ただし、特別な理由により増加した場合は過去 3 年間の平均値で評価する
死廃事故 頭数被害率	哺乳子牛 育成牛 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS	地域平均値以下である	調査前年度 1 年分の共済記録を用いるが、共済に加入していない場合はアンケートによる聞き取り調査を行う ただし、特別な理由により増加した場合は過去 3 年間の平均値で評価する
第四胃変位 発生率	搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS	第四胃変位発生率が成乳牛頭数の 3%以下である	調査前年度 1 年分の共済記録を用いるが、共済に加入していない場合はアンケートによる聞き取り調査を行う ただし、特別な理由により増加した場合は過去 3 年間の平均値で評価する

除籍牛平均月齢	搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS	地域平均値以上である	牛群検定成績表における調査月の「除籍牛平均月齢」を用いる ただし、何らかの理由により低下した場合、調査月から過去3年間の「除籍牛平均月齢」の平均値を用いる 牛群検定に加入していない場合、管理者から調査月より過去1年間もしくは過去3年間に除籍した牛の月齢を聞き、その平均値で評価する
異常行動	哺乳子牛	犬座、舌遊び、異物舐め、熊癩といった異常行動を発現する牛が1頭もない	実際に調査する
	育成牛		
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
逃避・逃走反応	搾乳牛 FS	逃走反応スコアの平均値が3.3以下である	ランダムに選んだ30頭以上を調査する ただし、調査対象牛が30頭未満であればできる限り全頭を調査する
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS	逃避反応スコアの平均値が5.3以下である	

B. 施設ベース (14 項目)

(搾乳牛 TS：つなぎ、搾乳牛 FS：フリーストール、搾乳牛 FB：フリーバーン)

項目名	対象	評価基準	測定方法
水槽の設置数と給水能力	哺乳子牛	人工乳（スターター）を給餌されている子牛が、十分な量の新鮮な水を常時飲水できる	実際に調査する
	育成牛	牛舎内に設置しているすべての給水器（水槽やウォーターカップ）が以下の条件を満たしている ①20頭に1台以上の割合で設置されている ②不断給水されている	アンケートによる聞き取り調査を行い、実際に調査する
	搾乳牛 FS	牛舎内に設置しているすべての給水器（水槽やウォーターカップ）が以下の条件を満たしている ①20頭に1台以上の割合で、各群につき2台以上設置されている ②不断給水されている	
	搾乳牛 FB	同上	
	搾乳牛 TS	牛舎内に設置しているすべての給水器（水槽やウォーターカップ）が以下の条件を満たしている ①ウォーターカップは2頭ごとに1台以上設置されている ②給水能力は2L/10秒以上である	実際に調査する 吐水量は左右両列の手前、中央、奥にあるウォーターカップで計測する
暑熱対策 [THI と風速]	搾乳牛 FS	$THI = 0.8T + 0.01H$ (T-14.3) + 46.3 [T: 気温°C、H: 相対湿度%] が72未満である THIが72以上のとき、風速が2m/秒以上である	気温と湿度は、数ヵ所の牛床上において牛体の高さで計測し、評価には最大値を用いる 風速は、数ヵ所の牛床上において牛体の高さで計測し、評価には平均値を用いる
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
牛舎内照度	搾乳牛 FS	牛舎内照度が70LUX以上ある	乳房付近の照度を数ヵ所の牛床で計測し、評価には平均値を用いる
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
空気の質	育成牛	牛舎内アンモニア濃度が25ppm未満である	牛が利用しうる通路・牛床・飼槽を計測し、評価には最大値を用いる
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
休息エリア寸法	搾乳牛 FS	1頭あたり畜舎面積が4.0㎡以上ある	牛が利用しうる畜舎面積を計測する
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS	1頭あたり牛床面積が1.8㎡以上ある	数ヵ所の牛床を計測し、評価には最小値を用いる ただし、一般的な牛より小型の牛の場合は考慮する

繫留方法	哺乳子牛	常時繫留の場合、70cm 以下の長さの短いロープで繫留していない	実際に調査する
	搾乳牛 TS	搾乳、給餌、人工授精などの一時的な使用以外、スタンションを使用していない	
カウトレーナー	搾乳牛 TS	原則として、できる限りカウトレーナーを使用していない やむを得ず使用している場合、以下の条件をすべて満たしている ①変圧のできない電牧電源を使用していない ②本体のアースは牛舎の外に埋設している ③カウトレーナーは通常立位状態の牛の背中から 5cm 以上離れている	アンケートによる聞き取り調査を行い、実際に調査する
設備の不良	哺乳子牛 育成牛 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS	パドックや放牧地も含めた農場内の施設全体に飼養管理上問題となるような欠陥がない	パドックや放牧地も含めた農場内の施設と設備をできる限りすべて調査し、外傷や隙間風が生じるような欠陥がないか確認する
人用踏込み槽	哺乳子牛 育成牛 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS	清潔な消毒槽がある	アンケートによる聞き取り調査を行い、実際に調査する
分娩房	搾乳牛 FS	放牧地で分娩させる場合を除き、1年を通したすべての分娩で以下の条件をすべて満たした分娩房を使用している ①1頭あたり 10 m <sup>2</sup> 以上ある ②清潔で乾いた敷料で覆われている	アンケートによる聞き取り調査を行い、実際に調査する
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
哺乳子牛の社会行動	哺乳子牛	カーフハッチや単飼ペンは、子牛同士がお互いを確認できるような設備である	調査者が子牛の目線に立って評価する
1頭あたりの牛床数	育成牛	1頭に 1.1 ストール以上である	実際に調査する
	搾乳牛 FS		

放牧	搾乳牛 FS	<p>以下の条件をすべて満たし、搾乳牛全頭を放牧地もしくはパドックに放している</p> <p>ただし、次の期間は評価対象外とし、牛を放牧地もしくはパドックに放していなくてもよいとする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暑熱、積雪、悪天候、天災により放牧地もしくはパドックへの出入りが困難である期間</li> <li>・放牧に関して、早春および晩秋、冬季の放牧地の利用が困難である期間</li> <li>・疾病や障害からの回復に運動が悪影響を与えると認められる期間</li> <li>・放牧地もしくはパドックの維持管理に採食または運動による支障が生じると認められる期間</li> <li>・妊娠8ヵ月から分娩直後までの期間</li> </ul>	<p>アンケートによる聞き取り調査を行い、実際に調査する</p> <p>ただし、ぬかるみがあったときは、管理者にその理由を確認し、悪天候により生じたものと判断できた場合は保留とし、後日再調査する</p>
	搾乳牛 FB	<p>①放牧可能時期には、毎日、放牧地に牛を放している</p> <p>②冬季には、毎日、パドックもしくは放牧地に牛を放している</p> <p>③放牧地もしくはパドックの1日の利用時間は4時間以上である</p> <p>④牛舎内への出入りが自由でない場合、放牧地もしくはパドックにおいても摂食、飲水が常に可能である</p> <p>⑤牛舎への出入りが自由でない場合、全頭が入れるシェルターまたは物影がある</p>	
	搾乳牛 TS	<p>ただし、一部の牧区のように日影がない場合、パンティング行動がみられるような暑熱時には、その牧区への放牧を避けていけばよい</p> <p>⑥悪天候時を除き、牛舎から放牧地、パドックへの通路、放牧地およびパドックが過度にぬかるんでいない</p> <p>⑦放牧地、パドック、通路などの牧柵に有刺鉄線を使用していない</p> <p>⑧放牧地の面積は搾乳牛1頭あたり、昼夜放牧の場合25a以上、夜間または昼間放牧の場合15a以上ある</p>	
牛体ブラシ	搾乳牛 FS	<p>飼養場所（牛舎、パドック、放牧地）のいずれかに牛体ブラシや木などの身繕い可能な物がある</p> <p>ただし、身繕い可能な物を設置していない場合でも、管理者が全頭に対して週1回以上ブラッシングをしていけばよい</p>	<p>アンケートによる聞き取り調査を行い、実際に調査する</p>
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		

C. 管理ベース (17 項目)

(搾乳牛 TS：つなぎ、搾乳牛 FS：フリーストール、搾乳牛 FB：フリーバーン)

項目名	対象	評価基準	測定方法
濃厚飼料給与量	搾乳牛 FS	1年を通して、濃厚飼料の給与量が乾物重量換算で平均採食量の50%以下である	アンケートによる聞き取りを行う 平均採食量は有機畜産物の日本農林規格を参照する
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
1人あたりの飼養頭数	搾乳牛 FS	酪農業従事者1人あたりの搾乳牛飼養頭数が30頭以下である	アンケートによる聞き取り調査を行い、実際に調査する
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
飼槽の清潔さ	育成牛	以下の条件をすべて満たしている ①飼槽表面が平らで、破損している箇所がみられない ②飼料のこびりつき、飼料の変敗がみられない	すべての飼槽を調査する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
水槽の清潔さ	育成牛	水槽内に、腐敗した飼料、ぬめり、糞便、藻などによる過度な汚染がみられない	すべての水槽を調査する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	搾乳牛 TS		
哺乳子牛への初乳給与	哺乳子牛	以下の条件をすべて満たしている ①生後6時間以内に初乳を給与している ②吸乳が不可能な場合、哺乳用カテーテルなどを用いて生後24時間以内に初乳を給与している ③3日間以上、初乳もしくは全乳を給与している	アンケートによる聞き取り調査を行う
離乳時期	哺乳子牛	以下の条件をすべて満たしている ①離乳は7週齢以降に行っている ②人工乳の摂取量が1日1kgを超えるか、3日間続けて0.5kgを超えてから離乳を行っている	アンケートによる聞き取り調査を行う
哺乳子牛への粗飼料給与	哺乳子牛	2週齢以上の子牛に良質な粗飼料を給与している	アンケートによる聞き取り調査を行う
牛床の柔らかさ	哺乳子牛	よく乾燥し、カビや糞尿による過度な汚染がみられない敷料を5cm以上の深さで敷いている	数ヵ所の牛床で前中後の敷料の深さを計測し、各牛床の平均値のうち最小値を評価に用いる
	搾乳牛 FS	以下の条件のうち、該当する条件をすべて満たしている ①5cm以上の深さで敷料を敷いている	数ヵ所の牛床で敷料を均等にならしてから、前中後の敷料の深さを計測し、各牛床の平均値のうち最小値を評価に用いる
	搾乳牛 TS	②マットレスに少量の敷料を敷いている ③15cm以上の砂を敷いている	

除角	哺乳子牛 育成牛 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS	除角していない場合（遺伝的に無角となる精液を利用している場合も含む）は基準を満たすとする 除角している場合、生後4週齢以内に行っている ただし、麻酔下での実施が望ましい	アンケートによる聞き取り調査を行う
副乳頭	哺乳子牛 育成牛 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS	副乳頭を除去していない場合は基準を満たすとする 副乳頭を除去している場合は以下の基準をすべて満たしている ①7日齢以内に副乳頭を除去している ②それ以降は局所麻酔下で実施している	アンケートによる聞き取り調査を行う
削蹄回数	搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS	周年放牧の場合を除き、以下の条件のいずれかを満たしている ①年2回以上削蹄を行っている ②放牧を行っている場合、年1回以上削蹄を行っている	アンケートによる聞き取り調査を行う
起立不能な牛（ダウナーカウ）への対応	哺乳子牛 育成牛 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS	以下の条件をすべて満たしている ①起立できない牛を移動させる場合、肉体的損傷をさらに起こすような方法（牛体に傷がつかないように処置もないまま、引きずり出すなど）で移動させていない ②給餌や給水などの世話をし、放置していない	アンケートによる聞き取り調査を行う
哺乳道具の衛生管理	哺乳子牛	以下の条件をすべて満たしている ①スポンジなどを用いて、お湯で汚れ（有機成分）を落としている ②洗剤や熱湯などを用いて消毒している ③乾燥可能な状態で保管している	アンケートによる聞き取り調査を行う
哺乳子牛へのミルクの給与	哺乳子牛	哺乳はすべて、乳首付きバケツや哺乳ボトル、自動哺乳システムのいずれかを用いて行っている	アンケートによる聞き取り調査を行う
哺乳子牛の群飼	哺乳子牛	獣医師の指示や伝染病など特別な理由がない場合、8週齢以降の子牛を群飼している	アンケートによる聞き取り調査を行う



<p>取扱い</p>	<p>哺乳子牛 育成牛 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS</p>	<p>牛の誘導時にスタンガンや電撃棒などの電気刺激を与える器具を使用しない 牛に1頭ずつ名前をつけ名前を呼んだり、牛に声かけしたりしていることが望ましい</p>	<p>アンケートによる聞き取り調査を行う</p>
<p>死亡獣畜取扱場への搬入</p>	<p>哺乳子牛 育成牛 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB 搾乳牛 TS</p>	<p>死亡獣畜取扱場（化製場）へ牛を搬入する場合、獣医師による安楽殺を行ったうえで輸送している</p>	<p>アンケートによる聞き取り調査を行う</p>